

4.3 推進姿勢

2. 効率化

- これまでの取組みでは、『効果発現のスピードアップ』を目指し、“1.5車線の整備手法”を導入し、離合（すれ違い）困難解消率を75.8%から81.2%に引き上げました。
- 新たな愛媛道ビジョンにおいても、引き続きこの整備手法を積極的に活用するほか、既存ストックなどの活用により整備の効率化を図ります。

1.5車線の整備手法の積極的な活用 (県道の構造の技術的基準等を定める条例の活用)

地方分権改革に伴い、地域の実情に応じた道路計画が策定できるよう「愛媛県県道の構造の技術的基準等を定める条例」(平成25年4月1日施行)を制定し、その中で明確化した8つの県独自基準を活用して効率的・効果的な道路整備を推進します。

特に、「1.5車線の整備」については、これまでの取組みにより定着していることから、引き続き積極的に活用し、早期の整備効果の発現を図ります。

【1.5車線の整備とは】

1車線と2車線の間道の道幅で整備を行うことを意味するのではなく、従来の2車線整備にこだわらず、交通量や沿道状況、地形などから判断して、2車線で整備する区間、1車線で整備する区間、局所的な整備で対応する区間を設定し、それらを組み合わせることで当面の課題への対処を従来よりも早く安価に行うという整備手法です。

従来の2車線整備に比べて、より安く、より早く整備が進められるため、整備による効果を短期間で得られることから、問題を抱える箇所をより多く整備することが可能になります。

【1.5車線の整備イメージ図】



「愛媛県県道の構造の技術的基準等を定める条例」 8つの独自基準

- ①1.5車線の整備 ②車線数の緩和 ③植樹帯の設置要件の緩和
- ④歩道幅員の縮小 ⑤広幅路肩の設置 ⑥交差点部の車道幅員の縮小
- ⑦歩道部の透水性舗装 ⑧標識の寸法・文字の大きさの縮小

スマートICや道の駅の活用による地域拠点の形成

1. スマートIC

高速道路は、沿線地域のヒト・モノ等の流れを飛躍的高め、地域の発展と安全・安心な生活を提供していますが、日本では、出入りできるインターチェンジの間隔が欧米と比べ約2倍長く、手軽に、また、便利に利用できる状況ではありません。

そこで、既存の高速道路に、スマートIC（ETC車両限定の簡易なIC）の追加整備を支援し、利便性を向上させ、地域経済の活性化等を促進します。



スマ-IC整備箇所の全景



スマ-ICを通過する救急車

2. 道の駅

道の駅は、道路利用者の休憩施設として整備されてきましたが、近年の自然災害の増加により、災害等の情報提供や避難場所、加えて地域活性化としての機能も求められています。

そこで、避難場所として使えるだけでなく、防災拠点や利用者に観光地紹介等を行う情報発信基地、直売所など、全国モデル道の駅「からり」や「しまなみ海道周辺」の重点道の駅等を見本に、地方創生の拠点として活用します。



避難場所として利用される道の駅



道の駅内にある防災センター

既存ストックの活用

既に整備された施設を活用したり、再構築するなどして、効率的に道路空間の機能を高めます。

【愛媛マルゴト自転車道の取組み】

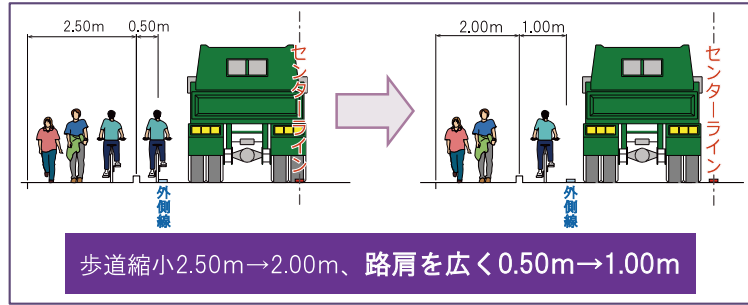
既に整備された道路に、ブルーライン、注意喚起標識、案内表示、休憩所等を新たに設置することにより、自転車が安全で快適に利用できるサイクリングコースを整備します。



また、歩行者の少ない箇所等において、歩道の幅員を縮小し、路肩を拡幅することにより、限られた道路幅員を有効活用するなど、利用者の安全な走行空間を確保します。

【水路の暗渠化や、路肩のカラー化による歩行者・自転車通行空間の確保】

道路幅員が狭く、歩行者・自転車の通行が危険な状態になっている箇所において、水路や既設の道路側溝を暗渠化したり、歩道がない区間において、路肩のカラー化を行うことにより、歩行者・自転車の通行空間や安全を確保します。



【歩道幅員の縮小による路肩の拡幅(愛媛マルゴト自転車道)】



【水路の暗渠化による歩行者・自転車通行空間の確保】



【路肩のカラー化による歩行者の通行安全の確保】

『道の駅』の新たな展開 ～地方創生拠点の形成～

国土交通省では、「道の駅」が活力を呼び、雇用を創出するなど、経済の好循環を地方に行き渡らせる成長戦略の強力なツールとして、また、地方創生を進めるための「小さな拠点」として位置付け、関係機関と連携して特に優れた取組みを選定・重点支援しています。

<p>全国モデル「道の駅」 国土交通大臣選定 6箇所</p>	<p>地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの</p> <p>全国的なモデルとして成果を広く周知するとともに、さらなる機能発揮を重点支援</p>
<p>重点「道の駅」 国土交通大臣選定 73箇所</p>	<p>地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの</p> <p>取組を広く周知するとともに、取組の実現に向けて、関係機関が連携し、重点支援</p>
<p>重点「道の駅」候補 地方整備局長等選定 49箇所</p>	<p>地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取組が期待できるもの</p> <p>関係機関が連携し、企画検討等を支援</p>

「平成28年2月現在」

全国モデル・重点「道の駅」選定箇所

全国モデル「道の駅」

内子フレッシュパークからり

- 地元農家の女性達が中心となり、販売額は約7億円、町の農産生産額の15%を占め、新たに58名の雇用を創出。
- 販売管理システムやトレーサビリティを導入し、16年間で利用者は6倍、販売額は8倍に増加。

重点「道の駅」

しまなみ海道周辺「道の駅」

- 周辺の道の駅が連携し、「瀬戸内しまなみ海道」のサイクリングコースや急流観潮船、海鮮バーベキューなど独自の観光資源の魅力を一体的に情報発信することで、サイクリストをはじめとした国内外の観光客を地域の周遊観光へと呼び込む環境を構築。
- 道の駅に外国人観光案内所や免税店を設置することで、外国人観光客の受け入れ体制を構築。

サイクリストの聖地として国内外のサイクリストを誘致

5つの「道の駅」が連携して地域の魅力を情報発信